

2月15日(月曜日)

ドル/円

## 中国の預金準備率引き上げにより急落

### 12日(金)の主な推移

NYダウ平均

10099.14ドル  
(-45.05ドル)

米長期金利  
(10年債利回り)

3.6947%  
(-0.0265%)

NY原油先物

74.13ドル  
(-1.15ドル)

チャート: 30分足 12日(金)朝7時 ~ 13日(土)朝7時



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、( )は前日比  
出所: 外為どっとコム

①

欧州連合(EU)首脳がギリシャ支援で合意したことにより、日経平均株価が後場に入り持ち直したことや、ドル/円が90円台に乗せたことで売り方の買い戻しを誘発し、ドル/円は18時前には一時90.33円まで上昇した。

②

18時57分に中国人民銀行(PBOC)が預金準備率を0.50%引き上げると発表した。市場では今回の金融引き締め措置はサプライズとして受け止められ、一時的に円が買われた。この結果を受けてドル/円は急落し、19時半には12日安値となる89.59円まで値を下げた。

③

22時30分に発表された米1月小売売上高が前月比+0.5%と市場予想の+0.3%を上回ったことが市場では好感され、ドル/円は12日の高値となる90.41円まで上昇した。しかしNYダウ平均株価が取引開始直後から160ドルを超えて急落し、一時は1万ドルの大台を割る場面が見られた。その急落に巻き込まれる形でドル/円一時89.80円台まで値を下げるなど軟調な展開となり、その後は90円を挟んでの小動きに終始した。

### 上昇要因(ドル高・円安)

- ・米経済の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加資金供給
- ・日本の財政赤字への懸念

### 下落要因(ドル安・円高)

- ・米金融規制案への懸念
- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米経済の回復の鈍化
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・金融市場全体のドル売りムードの高まり

### 本日の見通し

本日の予想レンジ: 89.50-90.60円

本日は中国が春節(旧正月)を迎え、米国ではプレジデント・デーにつき米国市場が休場のため、NY時間は特に動意の薄い展開が予想される。一方で取引の薄いところを突く市場参加者が出る可能性もあり、不意の値動きには注意したい。

なお欧州時間にはユーロ圏非公式財務相会合が開催される。すでに関係者より具体的なギリシャ支援策は出ない見込みであることが伝わっているが、もし救済への具体策が出た場合には、ギリシャ財政問題の進展によりユーロが買い戻され、結果的にドル/円も連られて上昇する展開が予想される。

12日に米国で発表された経済指標を振り返ると、1月小売売上高は好調であったものの、2月ミシガン大消費者信頼感指数は市場予想を下回るなど強弱入り乱れる形となり、景気回復の足取りも一本調子ではないため、積極的にドル買いにポジションを傾けにくい状況である。そのため暫くは出口戦略の見極めとともに、経済指標に左右される相場展開が見込まれる。

### 本日の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
2/15(月)			米国休場(プレジデント・デー)	—	—
			特になし	—	—

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com